

生いたち 修学時代



尋常小学校1年生ころの吉盛と祖母

米田吉盛は、1898（明治 31）年 11 月 10 日、父・米田良吉と母・サヨシの長男として愛媛県喜多郡満穂村（現内子町）論田に生まれました。

家庭の事情により祖母のクマに育てられた吉盛は、満穂南尋常小学校を卒業すると、自分一人で生きていくことを決意します。まず京都の呉服屋で一年ほど丁稚奉公をし、第一次大戦後の景気に沸く台湾行きを決意、15 歳で台湾に渡り台北の山本金物店で勤務、正規の学問をしようと給料を貯金して将来の学資のために備えました。

満 20 歳での徴兵検査で右目視力が弱く丙種合格（現役に適さない）となった米田は、学問を修めるために上京します。

東京での米田は、まず現在の新宿区四谷あたりの新聞販売店に住み込み、朝は新聞配達、昼は神田の正則英語学校と中学四年に編入するための予備校、夜は週三日の漢文塾へと通い、勉強を重ねました。その結果 1919（大正 8）年、攻玉社中学（旧制中学のため五年制）の四年に合格。喜んだ米田は一層勉学に力を注ぎました。そして引き続き学費を自分で稼ぎ、1923（大正 12）年には弁護士を志望して中央大学専門部法学科への進学を果たしたのです。ここで米田は「辞達学会」という弁論部に入って積極的に活動し、また、憲法学等の研究に励みました。



辞達学会の弁論 演題幕に米田の名前が見える（1925 年）〔中央大学資料館事務室所蔵〕